

令和 7 年度使用

豊能郡地区中学校教科用図書推薦書

豊能郡地区教科用図書調査研究委員会

推 薦 発 行 者

種 目	推薦発行者名（発行者番号順）				出版社数	現在使用教科書
国語	三省堂	光村			4	三省堂
書写	三省堂	光村			4	光村
社会 (地理的分野)	教出	帝国			4	帝国
社会 (歴史的分野)	東書	教出	帝国	日文	9	日文
社会 (公民的分野)	教出	帝国	日文		6	日文
地図	東書	帝国			2	帝国
数学	東書	数研	日文		7	日文
理科	東書	啓林館			5	啓林館
音楽 (一般)	教出	教芸			2	教芸
音楽 (器楽合奏)	教出	教芸			2	教芸
美術	開隆堂	光村			3	開隆堂
保健体育	東書	大修館			4	東書
技術・家庭 (技術分野)	教図	開隆堂			3	教図
技術・家庭 (家庭分野)	教図	開隆堂			3	東書
英語	東書	開隆堂	教出		6	啓林館
道德	教出	光村	学研		7	日文

総合評価A	理 由
【15】 三省堂	○生徒にとって興味・関心のある題材で、適切な文章の記述と分量になっている。例えば、1年の「一〇〇〇円の価値を考える」では、近年急速に普及しているキャッシュレス決済を取りあげている。また、3年では「フロン規制の物語」において、常識を疑う思考力を高めることや、他の教材においても自身のこれからの生き方や働き方について考える題材が取りあげられる等、発達段階が考慮されていることが特に評価できる。 ○「思考の方法」では、思考の仕方を「思考ツール」等を交えてまとめており、教材の学習内容を深められるよう、図解を用いて解説されている。 ○「情報」をどのように扱うかについては、ポイントを漫画でまとめており、生徒が主体的に学びに向かうために読みやすくまたわかりやすく構成がされている点が良い。 ○巻末に文章の「読み方に関するポイントのまとめ」や「メモの仕方」、「話し合いの仕方」など、対話に関わる知識や技能がまとめられており、言語活動を進めるにあたってのポイントがたいへんわかりやすい。 ○カラーユニバーサルデザインの観点を重視し、どの生徒にとっても使いやすい教科書となるよう配慮している。 ○二次元コードから、500以上の多様なコンテンツにアクセスができるようになっており、より自分が今必要としていることを検索し、活かしていく個別最適な学びが提案されている。
【38】 光村	○「学びへの扉」で大まかな学習の流れを把握し、また、どのような資質・能力を高める單元であるかが端的に示されている。 ○「学びのカギ」では、二次元コードを活用することで、つけたい資質・能力を図解つきで見ることができ、また、既習事項についても活用・検索ができるようになっている。 ○「国語の力試し」では、教科書の問題だけにとどまらず、発展問題にもCBT形式で取り組むことができるようになっている。 ○二次元コードから+αの情報にアクセスができるようになっており、より自分が今必要としていることを検索し、活かしていく個別最適な学びが提案されている。 ○「語彙ブック」がついており、生徒の感情・思考を言語化するための手立ての一つとなる。 ○古典の資料では、両観音開き構造を採用し、迫力のある紙面が生徒に興味をもたせる構造となっているのが良い。

総合評価A	理 由
【15】 三省堂	○基本点画の書き方について詳しく説明がされており、各学年で適切な指導内容が取りあげられている。 ○「グループ新聞を作ろう」等、毛筆で学習したことを硬筆にも生かせる構成である点が良い。 ○「文字の変遷」「グループ新聞を作ろう」などで、他教科等と関連させた学習活動が取りあげられている。 ○左ページに手本、右ページに学習の進め方、ポイントが配置されている。 ○QRコードから、左利き用の動画をウェブ上で見ることもできる。 ○書写についてのポイントをまとめた折り込みが、巻末についており、目的に応じた書き方について考えることができる。 ○書写に関するテストが設定されているため、特に生徒の力を伸ばすことができる。 ○文字の変遷を載せ、看板職人やタイプデザイナーなどの「手書き」で活躍する人を特集することで、文字文化の魅力を紹介している。また、付属のデジタル教材を使用することでその姿を実際に確認できる点も生徒の興味を強く引き付ける構成である。 ○臨書についての説明がある。
【38】 光村	○「学びのカギ」には、学習のポイントが丁寧にまとめられており、特筆に値する。 ○見開きに半紙と同じ大きさの手本、前ページにポイントを配置することで、すべての生徒にとって書きやすく、指導者にとっても指導がしやすいように非常に配慮がされた教材となっている。 ○カラーユニバーサルデザインやユニバーサルデザイン書体を取り入れ、コラムでユニバーサルデザイン書体の説明があることが、特に良い。 ○「中学校書写スタートブック」のページに「左手で書く人」と表記のあるQRコードが記載され、左きき用の動画をウェブ上で見ることができ、きめ細かな配慮がされている。 ○「楷書」については、基本の点画の書き方と筆使いを、朱筆等を用いてわかりやすく示している。「行書」については、段階を経て学べるよう工夫されている。 ○課題の最初に「考えよう」の項目があり、見方・考え方を働かせながら、楷書と行書の使い分けなど、対話を通して考えることができるように工夫されている。 ○「多様な表現」については、「全国文字マップ」で身の回りの様々な文字を取りあげている。また、有名人のサインを取りあげた特集があり、手書きのよさに関してもマンガで親しみやすく表現していることは学び方の工夫として特に評価できる。 ○日常に役立つ書式（手紙・葉書・年賀状・包み紙・願書など）の特集があり、授業以外でも興味を持ち、調べ、実際の社会生活に活かした学びを特に進めることができる。 ○硬筆学習用の「書写ブック」が別冊となっており、非常に使いやすい。 ○QRコードコンテンツでは、書き方（筆使い）の説明が2つのアングルを組み合わせた動画で解説されているため、非常にわかりやすい。

総合評価A	理 由
【17】 教出	○課題をつかむきっかけとなる導入資料を左上に、資料がページの周りに配置され、本文はページの中央、見開きごとに学習課題が明記されると共に、「確認」と「表現」により1時間の学習内容を確認し深めることができるよう工夫されている。また、小学校社会科の学習や他分野と関わりがある内容が見開き右ページ下部等に表示されている。 ○世界の多様な文化の尊重について、理解できるよう適切に取り扱われている。世界の諸地域ごとに「地理の窓」が設置され、民族や歴史的背景について紹介されている。 ○巻頭でSDGsについて取りあげ、「世界の諸地域」の各州の導入において、地球的課題との関連付けをしている。主体的に現代の世界や日本の課題を読み解いたり、追究したりする学習展開になるように工夫されている。 ○「世界と日本の地域構成」「世界のさまざまな地域」「日本のさまざまな地域」の順で学習する配列になっている。また、学習したことを生かすことができるように、身近な地域の将来像を構想する「地域のあり方」が、「日本のさまざまな地域」の最後に配列されている。 ○導入の「LOOK」、資料の読み取り・考察のポイントを整理した「THINK」、思考・判断・表現力を高める「TRY」が、学びを助ける三本柱となっている。
【46】 帝国	○課題をつかむきっかけとなる導入資料を左上に、資料がページの周りに配置され、本文はページの中央、見開きごとに学習課題が明記されると共に、「確認しよう」と「説明しよう」により1時間の学習内容を確認し深めることができるよう工夫されている。また、小学校社会科の学習や他分野、他教科と関わりがある内容が、見開き左ページ下部等に表示されている。 ○世界の多様な文化の尊重について、理解できるよう適切に取り扱われている。世界の諸地域ごとに「未来に向けて」や「地理プラス」が設置され、諸地域の多様な価値観や文化の共生をはかる人々の姿が紹介されている。 ○地形図が標高差を含めて非常に見やすく、地図帳との連携が図られており、活用が促されている。 ○巻頭でSDGsについて取りあげ、「日本の諸地域」の各地方での「未来に向けて」において事例を掲載して関連付けしている。主体的に現代の世界や日本の課題を読み解いたり追究したりする学習展開になるように工夫されている。 ○写真、挿絵、図、表などの資料については、非常に見やすく、比較しやすいようになっている。 ○各章・節末の「学習を振り返ろう」では、章・節の学習で得た知識を活かして、「地理的な見方・考え方」を働かせつつ、「単元を貫く問い」に対して思考ツールを用いて、自分の考えを整理・構造化できるように工夫されている。

総合評価A	理 由
【2】 東書	○「探求課題」「学習課題」「探求のステップ」の3段階の問いが設定されていることで、スムーズに探究課題を解決できる構成になっている。 ○世界の歴史の中での人権問題やアイヌ文化などについて丁寧に書かれており、生徒に知り、学び、考える機会を設定できる。 ○「現代の日本と私たち」では、「持続可能な開発目標（SDGs）」を取りあげることで、SDGs についての関心を歴史の授業を通じても高めることができる。 ○生徒の発達段階に応じた文量とわかりやすい表現で記述されており、歴史的事象の意味や意義、事象間のつながりが丁寧に説明されている。 ○他教科・他分野との関連を含めて、社会的事象や現代的諸課題について、より深く理解し、課題解決的な学習ができるよう工夫されている。
【17】 教出	○各章の最初や最後に、まとめや発展的なコラムが掲載されており、その章での学習内容を復習するとともに、世界の歴史の流れとも比較して日本の歴史を捉えることができる。 ○アイヌ民族の人たち、在日外国籍の人たちなどの社会的少数者の歴史と、それらに関わる現代の社会的課題が扱われており、人権尊重・多文化共生の実現に向けて、生徒に考えさせる機会を設定できる。 ○「学習のまとめと表現」で、その時代の風潮や時代の特色を踏まえ、根拠を持って説明・議論できるように工夫されている。 ○巻頭の「歴史で遊ぼう」では、人物や文化財を中心とした小学校での学習をゲームで楽しみながら振り返る活動を紹介している。 ○写真が豊富で、特に文化の單元では、視覚的にイメージしやすくなっている。
【46】 帝国	○コラム「未来に向けて」が掲載されており、発展的な学びがしやすくなっている。 ○「タイムトラベル」では、わかりやすいイラストを通して、生徒がそれぞれの時代の特徴や様子をイメージしながら学習に向かうことができるようになっている。 ○「用語解説」「巻末年表」のほか「NHK for school」や「リンク集」など、生徒が自ら学習内容を深めたり、復習したりするきっかけとなるコンテンツが豊富である。 ○すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。また、図版に背景色や囲み線をつけるなどして、図版と本文を区別しやすくするなど、インクルーシブ教育へ配慮した編修を行っている。 ○他教科・他分野との関連を含めて、社会的事象や現代的課題について、より深く理解し、課題解決的な学習ができるように工夫されている。

【116】 日文	○時代を見通す「導入」「本文」、資料をもとに考える「チャレンジ歴史」、学習の幅を広げる「歴史を掘り下げる」、学習した時代の特色を考える「まとめとふり返し」という流れで単元が構成されており、使いやすい。 ○構造化された「編（章）の問い」や「節の問い」が設定されている。また、その解答を行うコーナーやページも設定されている。 ○課題解決に取り組んだ先人の紹介や差別問題についてしっかり説明されている。歴史の中で生まれた差別と現代の諸課題との関わりを生徒が考える機会を設定できる。 ○琉球王国から沖縄へ、アイヌの人々、社会運動の広がり、水平社の創立など、様々な人権運動についてしっかり説明されており、今もなお解決を迫られる課題との関わりについて、生徒が考えることができる。 ○話し合いなど、対話的な活動が効果的に取り入れられるものについて、「学び合い」のマークが付けられている。 ○時代像を具体的にイメージできる図版を豊富に掲載し、「資料活用」を使って、いろいろな切り口から、ポイントをおさえた資料の読み取りができるようになっている。 ○各時代の特色や時代の転換に関係する基礎的・基本的な歴史に関わる事象を重点的に取りあげ、歴史の大きな流れを的確におさえられるように、端的にまとめている。
-------------------------------------	--

総合評価A	理 由
【17】 教出	○公民分野に必要な社会科の基礎的・基本的な事項がおさえられているだけでなく、社会の課題や今日の課題が反映された事象が積極的に取りあげられており、学習と社会とを結びつけやすい。 ○SDGsの達成目標や他教科（小学校課程も含む）の学習内容との関わりが、マークとともに見開き下部に示されている。 ○第2章の中で、「人権」という項目をしっかりと設定している。内容も、様々な差別の実態やそれに関連した過去のできごと、なぜ差別が生まれてしまうのかなどについて考えられる内容となっており、基本的人権に関わって非常に丁寧に掲載されている。 ○見開きの始めにある「LOOK!」や「学習課題」で社会との関わりを意識した課題が設けられ、社会課題の解決に結びつけながら学習展開ができるよう工夫されている。 見開き最後の「表現」では、他者との対話や意見交換を通して、協働的学びができるよう課題が設定されている。 ○章末の「TRY!」「学習のまとめと表現」では、各章での学習内容を踏まえたうえで、実際の社会の課題について考え、さらに共有することで、いろいろな考えに触れ、自分の考えの深化にもつながる構成になっている。 ○「学習のまとめと表現」のページでは、「HOP!」「STEP!①②」「JUMP!」を通して、語句の意味や章の問いを考えることで、学習した内容の定着につなげることができる。 ○「公民の窓」や「持続可能な社会に向けて」などで、単元の学習と関連する社会の課題に対して、自分ごととしてとらえ、解決に向けた関わりを考えられる内容が取り扱われている。
【46】 帝国	○節ごとに「節の問い」を設定し、課題解決に向けて学習を進め、各章末の「学習を振り返ろう」で学習を振り返り、探究したいテーマをまとめていくという構成になっている。そのため、各章や節での課題や学習内容から考えられることが、わかりやすい。 ○社会の変化に対応した新たな視点として、人工知能（AI）の進化と人権についての資料などが充実している。 ○「アクティブ公民AL」では、他者との対話や意見交換を通して、協働的な学びができるよう課題が設定されている。 ○章末の「学習を振り返ろう」のページでは、「節・章の振り返り」「探究学習への準備」を通して、語句の意味や章の問いをまとめることで学習した内容を確実に習得し、「SDGs」との関連をふまえて内容を深めることができるようになっている。 ○「未来に向けて」や「公民プラス」などで、単元の学習と関連する社会にみられる課題に対して、自分ごととしてとらえ、解決に向けた関わりを考えられる内容が取り扱われている。

【116】 日文	○各単元が、3つの観点（知識・思考・主体性）を意識した構成となっているため、評価がしやすい。 ○各単元の導入「学習のはじめに」や「章の問い」で、身近な場面にある学習課題が示され、その課題の解決に向けて学習を進め、各章の「まとめとふり返し」でわかったことをまとめていく構成になっている。 ○個人の尊重の考え方を基本理念として構成されており、人権の尊重、男女共同参画などの生徒たちと公民の授業を通じて考えていきたい基本的な観点が適切に掲載されている。 ○「明日に向かって」や「チャレンジ公民」、「公民＋α」などで、単元の学習と関連する社会にみられる課題に対して、自分ごととしてとらえ、解決に向けた関わりを考えられる内容が取り扱われている。 ○「アクティビティ」や「チャレンジ公民」「まとめとふり返し」では、考察・判断したことを論理的に説明したり、立場・根拠を明確にして議論したりできるように工夫されている。
---------------------	---

総合評価A	理 由
【2】 東書	○「Bee's eye」のコーナーでは、自ら調べたり考えたりする学習課題が設けられており、個別最適な学びを充実させるとともに、その課題をテーマに、生徒が意見交流を行う活動を通して、協働的な学びが充実するように工夫されている。 ○「Bee's eye」のコーナーや二次元コードからつながるデジタルコンテンツを通して、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ○人権尊重の観点から、基本となる地図、文章、写真、挿絵、図、資料等が適切に取りあげられている。例えば、巻頭の「現代社会の課題を解決するために『SDGs』を知ろう！」などのページにおいてSDGs、世界の文化・紛争等が取りあげられている。 ○歴史的分野や公民的分野でも活用できる資料が取り扱われており、課題を追究したり解決したりする学習につなげることができるように工夫されている。 ○日本の自然環境について扱うページでは、天気図やイラスト、写真等が掲載されており、理科の学習内容と関連づけることができるようにしている。
【46】 帝国	○「主題学習？」のコーナーでは、自ら調べたり考えたりする学習課題が設けられており、個別最適な学びを充実させるとともに、その課題をテーマに、生徒が意見交流を行う活動を通して、協働的な学びが充実するように工夫されている。 ○「地図で発見！」のコーナーや二次元コードからつながるデジタルコンテンツを通して、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ○「地名を手話で話す」コーナーが設けられ、インクルーシブ教育などに配慮されている。 ○問い「地図で発見！」が数多く設置されている。地図の読み取りだけでなく、「社会的な見方・考え方」を働かせた学習に活用できる。 ○資料は、地域の特色を適切に理解できる題材が選定されている。そのため、教科書で取り扱われる内容をより深められる。 ○修学旅行の事前・事後学習や平和学習などにも活用できるよう、様々なイラストが入った親しみのある地図が多数掲載されており、調べ学習がしやすいように工夫されている。 ○日本の自然災害・防災について扱うページでは、衛星画像や台風のしくみをイラストなどで示すなど、理科の学習内容と関連づけることができるようにしている。

総合評価A	理 由
【2】 東書	○写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階を考慮したものになっている。例えば、1年では、基本となる正の数・負の数を捉えさせるため、数直線を用い具体的な活動から抽象的な思考へと、段階的に適切に取り扱われている。 ○生徒一人ひとりの特性や学習進度に応じた「個別最適な学び」が実現できるように豊富な問題が設けられており、多様な見方・考え方を自覚できるようになっている。 ○全体に適切な内容・分量の問題が配列されており、知識・技能やそれらを活用する力が段階的に身につくようになっている。 ○文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。 ○数学どうしのつながり、身のまわりや社会と数学とのつながりを示すことで、数学の必要性や有用性を生徒が感じられるよう工夫されている。 ○問題解決的な学習を重視し、自立的、協働的に解決することを通して、自他の価値を尊重しながら能力を伸ばし、創造性が培えるようになっている。 ○当該学年の学習の土台となる内容をまとめて振り返ることができる「学びのベース」が設定されている。他にも、問題発見・解決の過程を意図した「深い学びのページ」が、設けられている。 ○数学の問題発見・解決の過程を念頭に置き、「見方・考え方」を働かせた「数学的活動」が適切に設定されている。また、「章の問題B」では、全国学力・学習状況調査でも求められる実生活や他教科の学習など様々な場面で知識・技能を活用する力を問う「活用の問題」が用意されている。
【104】 数研	○問題解決型の展開を軸として構成されており、章の学習の最後には、その章で学んだ内容を活用する問題を扱っている。また、項目末には必要に応じて「練習問題」が設けられており、繰り返し練習が必要な問題に取り組ませることができるよう工夫されている。 ○数学の学習内容をもとに、系統性に沿った配列になっている。単元の導入では身近な生活の中で出てくる疑問を扱い、数量や図形の性質を見だし、課題解決的に問題に取り組んでいく構成になっている。 ○ユニバーサルデザインの観点から、フォントや配置、色、図などが工夫され、全体にわたって、ユニバーサルデザインフォントを大きめの文字サイズで使用している。 ○QやTRYを配置し、課題提示から自分や周りの考えをまとめて問題解決できるよう工夫されている。 ○各ページの二次元コードには補充・イメージ・資料・考察・探究のコンテンツがあり、生徒一人ひとりの学習状況に応じた問題が用意されているだけでなく、追加の活用問題も多く準備されている。また、動画やシミュレーションなどのデジタルコンテンツや資料などを見ることができ、イメージのコンテンツでは生徒が直感的に操作しやすい工夫がされている。

【116】 日文	○小節ごとに〈めあて〉を示したり〈例〉に見出しをつけることで、学習内容がつかみやすく、復習しやすくなっている。〈例〉や〈問〉は、小さなステップで段階的に学びを積み上げていけるようになっている。 ○数学の学習内容をもとに、系統性に沿った配列になっている。巻頭、各章、巻末の構成で内容を配列し、各章と巻末には多彩な問題をバランスよく配置している。 ○文章、写真、挿絵、図など、人権尊重の観点から配慮されている。男女平等、多様性社会への配慮としてイラストでは、性別による役割の固定化がないように配慮されている。 ○「学び合おう」や「ふり返しシート」には、その学習の場面における振り返りの観点が明示されている。 ○コンテンツを起動しなくても内容を推測しやすいように、デジタルコンテンツを使うと有効な場所に二次元コードをレイアウトし、その上に「見る」「ためす」「身に付ける」「図形のまとめ」など分類を付記している。初見の生徒でも迷わずに扱うことができるインターフェースになっている。 ○「数学の学習を始めよう！」には、生徒の学び方が例示されている。また、対話を促し、考えが比較できるよう、多くの場面で2人以上の考え方が提示されている。
---------------------	--

総合評価A	理 由
【2】 東書	○見やすさと読みやすさ、学習意欲の向上に配慮したA B判サイズが採用されている。大きい紙面なので、写真や図がわかりやすい。 ○自然環境への配慮や防災について適切に取り扱われている。例えば、3年の「自然災害と地域のかかわりを学ぶ」やコラムで、日常生活と関連付けて考えることができるよう、配慮されている。 ○章末の「学んだことをチェックしよう」や単元末の「学習内容の整理」「確かめ問題」「活用問題」では、学習した内容を振り返ることができるよう配慮されている。さらに、他教科との関連について「〇〇で学ぶこと」で示されている。 ○学んだことを生かして、自然や身の回りの事物・現象などについて科学的に探究することができるよう配慮されている。 ○二次元コードから、観察・実験に関する動画など、学習したことを習得し、理解を深めるために役立つコンテンツを活用することができる。
【61】 啓林館	○見やすさと読みやすさ、学習意欲の向上に配慮したA B判サイズが採用されている。大きい紙面なので、特に写真や図がわかりやすい。 ○見方・考え方の正解ではなく、探究の足場となるヒントを示すことで、主体的な思考をしやすいように非常に工夫されている。 ○探究の過程で、別冊の「探Qシート」を利用して、自分の考えを自由に書きこむことができる。書くことで主体的に考えられ、探究の流れを非常につかみやすい構成になっている。 ○特に単元の導入が工夫されており、単元の学習に関連した身の回りの疑問について考えることで、この単元の学習の見通しが立てやすい構成になっている。 ○単元の学習後に同じ問いを再考することで、自分の成長を実感することができるようになっており、自己の変容を知ること、自己肯定感が高まるように工夫されている。 ○学習した内容と日常生活や社会に関連したコラムが、節末に配置されている。コラムを通して、生徒に理科の有用性が伝わるように工夫されている。 ○生徒が理解しにくい内容や誤解しやすい内容に、「例題」や「なるほど」が設定されている。生徒の誤概念を取りあげ、正しく理解するポイントが示されている。 ○学びを活かして日常生活に見られる現象を考察する場面が、特に多く取りあげられている。 ○紙面に二次元コードが 500 以上あり、デジタルコンテンツを活用して学びが広がるように工夫されている。

総合評価A	理 由
【17】 教出	○基礎的・基本的な学習を踏まえ、効果的・発展的に学習に取り組むことができるように工夫されている。 ○ページ左端の「比べてみよう」が示されていることで、各教材を関連付けて学習することができる。 ○主体的・対話的で深い学びができるよう設定されている。また、色覚などの特性を踏まえ、配色やレイアウト、文字の大きさの工夫など、細部にわたり配慮されている。 ○鑑賞教材では、曲の構成や写真など、見やすく、わかりやすく説明されている。「フーガ」の楽曲の構成やパイプオルガンのしくみ、巻末のオーケストラの楽器の説明など詳しく示されている。 ○創作や指揮について、3年間を通した学習に配慮されている。 ○英語・社会・道徳など他教科の学習を併行できるよう配慮されている。 ○「ポピュラー音楽図鑑」では、それぞれの音楽の説明と演奏者について、詳しく紹介されている。 ○「音楽著作権」や「アウトリーチ」などわかりやすく示している。 ○「まなびリンク」のあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。
【27】 教芸	○基礎的・基本的な学習を踏まえ、より深まりのある学習や発展性のある学習にも取り組むことができるよう、とても工夫されている。 ○主体的・対話的で、より深い学びをできるよう設定されている。また、文字の大きさ、イラスト、写真など印刷の発色がよく、楽譜を含めて、大部分のページでユニバーサルデザインフォントが使用され、生徒への配慮がより行き届いている。 ○3学年を通して、「声の出し方」がわかりやすく説明されており、カンツォーネの選曲がより適切である。 ○楽典がリズムゲームを使って楽しく学習できるよう工夫されている。特に今年度全学年一新された巻末の「音楽を形づくっている要素」では、生徒にとって難しく感じる内容をわかりやすく示されている。 ○鑑賞教材について、曲の構成を楽譜やワークシートによって、より深く学べる工夫が多く見られる。「交響曲第5番 第1楽章」では、「動機」がとても見やすく示されている。また、今回、中学生になじみのあるミュージカルが、新たに掲載されている。 ○創作や指揮について、説明や図でより詳しく説明されており、3学年を通して発展的に学習することができるよう配慮されている。 ○他者を尊重し、自然を愛する心を育てることのできる教材や、道徳的観点と関連付けられる教材が取りあげられている。 ○「ポピュラー音楽」では、海外と日本のジャンル別に掲載され、CDジャケットの写真と解説が見やすく、生徒が関心を持ちやすい内容となっている。 ○「ルールを守って音楽を楽しもう！」では、音楽著作権について、わかりやすく示されている。 ○「二次元コード」は、生徒が協働して学習を進められるよう配慮されている。

総合評価A	理 由
【17】 教出	○基礎的・基本的な奏法が身に付けられるよう示され、生徒にとって親しみやすい教材が配置されている。また、生徒が興味を持ち、発展的に学習が進められるよう配慮されている。 ○生徒が主体的、協働的に学習を進め、「表現の仕方を調べてみよう」では、進んで学び合う活動が示されている。 ○アルトリコーダーは、基礎から独奏、アンサンブルと段階的に配列されており、教材ごとに学習のめあてが明記され、「まとめの曲」へ着実に到達できるよう工夫されている。 ○和楽器の取り扱いについて、見やすい資料(写真)とメッセージを掲載し、詳しく説明されている。 ○クラシックギターの取り扱いについて、写真を多く使い、丁寧にわかりやすく説明されている。 ○創作活動を通して、グループで表現したり交流したりする活動で、生徒が関心をもって学習できるよう示されている。 ○独奏曲で、「名曲旋律集」が紹介され、生徒が意欲的に取り組めるよう工夫されている。
【27】 教芸	○基礎的・基本的な奏法について、適切な文章とイラスト、写真を用いて配慮されており、生徒にとって親しみやすい教材が配置されている。また、生徒の心身の発達段階に即して学習が進められるように配慮されている。 ○「学びのコンパス」をはじめ、主体的、対話的で深い学びを実現するための活動が充実している。また、「考えたいポイント」では生徒が課題意識を持ち、主体的に学習に取り組むことができるよう示されている。 ○アルトリコーダーでは、導入のための曲が充実しており、基本練習から独奏・アンサンブルと段階的に配列されている。また、「リコーダーの種類」や「楽器を知ろう」など生徒が興味をもって学習できる工夫がされている。 ○和楽器の取り扱いについて、写真や図版をふんだんに用いて、わかりやすく説明されている。また、初級として導入する曲が多く、弾き歌いができるよう工夫されている。 ○クラシックギターの取り扱いについて、写真など視覚的に工夫がみられ、「楽器を知ろう」や歴史・種類などわかりやすく説明されている。 ○豊能郡内の中学校で取り組んでいるアルトリコーダーとギター・和楽器について、教材がよく考慮され、扱いやすい内容と配列になっている。 ○「リコーダー」や「和楽器」などで演奏できる「名曲の旋律」が紹介され、それらに親しめるよう工夫されている。 ○小物打楽器の説明や写真が多く、見やすくわかりやすい。 ○「楽器図鑑」では、楽器の種類が多く、わかりやすく掲載されている。

総合評価A	理 由
【9】 開隆堂	○伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を取り扱っているページの割合を多くし、生徒がより身近に美術を感じることができるよう工夫されている。 ○表紙は凹凸のある特殊な加工がされており、視覚だけでなく、触覚からも想像を膨らませ、美術への関心・意欲を高められるよう工夫されている。 ○教科書本編にはコートマット紙が採用されており、作品の写真映えに加え、反射を極力抑え、より集中して鑑賞しやすい仕上げとなっている。 ○写真と文章が見やすく、レイアウトが学習しやすいようになっている。 ○原寸大の作品画像が掲載されており、授業の導入などで使いやすい。 ○題材ごとに育成すべき資質・能力の三つの柱に基づいた「学習の目標」がわかりやすく示されている。 ○生徒が、造形的な視点を意識して表現や鑑賞の活動に取り組める内容が取りあげられている。 ○巻末資料で、材料や用具、表現方法の特性などを取りあげ、学習した内容をより確実に習得できるよう補充している。
【38】 光村	○2・3年の「日本の絵画を楽しむ五つのキーワード」において和紙のような風合いの紙が採用されており、より本物に近い感覚で鑑賞ができるよう工夫されている。 ○各題材において、「表現」「鑑賞」マークとともに学習のねらいが提示されており、生徒が造形的な視点を意識して、表現や鑑賞の活動に取り組めるようにレイアウトされている。 ○各学年に応じた単配列になっており、より深化させて、学習しやすいようになっている。 ○基礎的なことから発展的なことまで考えられている。 ○生徒作品を紹介する際に、手順も合わせて掲載されており、わかりやすい。 ○全編を通して300を超える材料や用具が取りあげられており、生徒の発想のヒントとなるよう工夫されている。

総合評価A	理 由
【2】 東書	○本文の内容が、端的でわかりやすい。 ○見開き2ページで1単位時間の学習となっており、レイアウトに沿って学習を進めることができる。 ○導入の「見つける」では、多様な活動を通して学習課題に迫り、思考力、判断力、表現力を育成することができるような発問が設定されており、主体的・対話的で深い学びの実現につながる。 ○文字や資料がバランスも良く、基礎的・基本的な知識の定着及び主体的な学びにつながる。 ○「Dマーク」ではインターネットを使った学習をすることができ、動画やシミュレーションで興味や関心を引くことができる。また、家庭での学習にもつながりやすく、振り返りなどで学習を深めることができる。 ○章末にある「まとめ問題」では、知識を養う問題だけでなく、実生活に生かすための問題も出されており、実践力を養うことができる。
【50】 大修館	○本文が読みやすく、わかりやすい。 ○見開き2ページで1単位の学習となっており、課題を見つけ、思考・判断し、他者に伝える形式での学習方法が、学習指導要領に準拠している。 ○「課題をつかむ」では、課題の提示がわかりやすく、すべての生徒が答えられる問いかけになっている。 ○「キーワード」で重要語句を明示し、基礎的・基本的な事項が定着するように配慮されている。 ○単元末の特集資料では、学習内容と関連した内容を詳しく取りあげ、日常生活の合理的な実践を促すことができる。 ○デジタルコンテンツが充実しており、動画や資料を用いて授業を進めることができる。 ○QRコードを読み取ると、生徒自身の媒体で学習することができ、家庭学習の推進につながる。 ○章のまとめでは学習したことを振り返って、日常生活に生かすことができる。 ○性の多様性やSDGsなどの身近な話題にふれ、保健体育の学習と関連づけて関心を高めることができるように配慮されている。

総合評価A	理 由
【6】 教図	○各分野で課題解決のためのものづくりの過程が、よりわかりやすく示されている。イラストやQRコードの配置のタイミングも良く、見通しを持って製作することができるようになっている。 ○章末の「未来をつくろう」では、既習事項の発展的な内容を紹介し、技術が社会でどのように役立っているのかよりわかりやすく示されており、トレードオフの視点で技術を捉え、深い学びにつなげることができる。(例：P68) ○2章の「プチ問題解決にチャレンジ」の製作題材は、基礎技能が学べる易しい題材となっており、作業工程がより丁寧に示されていて、最も効率的に生徒が見通しを持って実習に取り組めるようになっている。 ○別冊「スキルアシスト」では、製作に必要な道具類の使い方や安全面に配慮した事項などが端的にまとめられており、教科書のQRコードによる映像資料と合わせて使用することで、生徒がより主体的・対話的に取り組むことができる。 ○2章「技術を生かそう」の最初に4コマ漫画の資料が示されており、ユニークな工夫で、より視覚的に製作をイメージしやすいように配慮されている。
【9】 開隆堂	○各内容は、「導入」→「基礎学習」→「展開」→「まとめ・評価」の順で構成され、生徒が見通しを持ちながら学習しやすい配列となっている。その中でも特に、2章では課題解決的な製作の例がより多く示されており、トレードオフの視点を持ちながら、生徒が日常生活の中から課題を発見する助けになる。(例：P54) ○各ページのQRコードでは、映像資料や解説にとどまらず、授業の振り返りや自己評価などができる「CHECK」シートが示されており、より主体的・対話的な学びにつながる。 ○「D：情報の技術」では、プログラミング学習に関する内容がより多く示されており、基礎的な内容から発展的な内容まで段階的に学習することができるようになっている。 ○「技術分野の出口」では、各内容で学習したことを統合して、より発展的な内容として紹介している。また、3章「これからの技術」では、既習事項を選択して、課題解決学習に取り組めるようになっている。

総合評価A	理 由
【6】 教図	○学習指導要領に沿った構成で各分野が並んでいる。 ○写真の取り扱いが多く、視覚的にわかりやすく工夫されている。 ○QRコードで動画を見ることができ、視覚的に学びを深めることができる。 ○生活を「見つめる」ことから始まる授業の流れが見える紙面は、使いやすい。 ○「年中行事と私たちの暮らしのつながり」では行事と行事食との関連がイラストや写真で掲載されており非常にわかりやすく、イメージしやすい。また、「実習は安全に取り組もう！」においても、どこに視点を置き安全に留意をしたらいいかがイラストで示されていてわかりやすい。 ○「センパイに聞こう！」ではそれぞれの年代や立場の意見を聞くことができ、メッセージ性もあるので自分の事として考えやすくなっている。 ○原寸大の写真を用いるなど実感をともなった学習ができるように工夫されている。例えば、「食品群別摂取量のめやす」「幼児の体の発達を知ろう」がそれにあたる。 ○資料のまとめ方がわかりやすい。例えば「おもな食中毒の原因と予防」「おもな繊維の種類とその特徴」「自然災害への備え」「朝食をたべよう」「住まいの中で起こる事故」などがそれにあたる。 ○各節のめあての掲載キーワードや、「見つめてみよう」の設定により、主体的に学びに向かう姿勢や思考力を育成する工夫がされている。
【9】 開隆堂	○文章が、適当な分量となっていて見やすい。課題を解決するための手がかりや、本文内容の理解を助ける科学的な資料を効果的な表現や分量・大きさを示している。 ○学習指導要領に沿った構成となっている。 ○写真の取り扱いが多く、視覚的にわかりやすくなっている。 ○QRコードで動画を見ることができ、視覚的に学びを深めることができる。 ○「先輩からのエール」の設定や「参考」「発展」の設定により、キャリア教育や現代の課題に連結できる資料が掲載されている。例えば、現在の社会問題である「ヤングケアラー」「成長における公的なお金」「アタッチメント（愛着）と探索行為」「子ども食堂」「フードバンク」等が掲載されている事により、その話題にふれやすくなっている。 ○挿絵には、科学的な根拠が視覚的にわかるようになっている。例えば、「部屋の換気方法」「体の中でも食べ物のゆくえ」「災害発生時の対応」等がそれにあたる。 ○原寸大の写真を用いるなど、実感をともなった学習ができるように工夫されている。例えば、「1日にとりたい食品と分量」「子どもの成長をみてみよう」がそれにあたる。 ○資料が豊富で、視覚的に学習する事ができるため生徒の理解度が上がる工夫が見られる。コロナ以後の情報が掲載されており、リアルタイムの情報が載っている。例えば、「衣料品はどこでつくられるのだろうか?」「家庭生活を支える社会」「アニサキス」の掲載は、興味深い。 ○「学習のまとめ」では単に重要語句を確認するだけにとどまらず、考えさせることに重点が置かれ、生徒が振り返る時間の設定がされていて非常に良い。教科書に書き込める形式が、ニーズにあっている。

総合評価A	理 由
【2】 東書	○小学校で学んだ表現を使って、「聞く」「話す」活動から入るようになっており、小学校からのつながりが意識されている。 ○各学年・各学期の到達点を CAN-DO リストとして示し、明確な到達点に向かって学習を進められるように、非常に工夫されている。 ○教科書全体を通して、説明、発表、ディベートができるように工夫されている。 ○各 unit で、「場面設定→文法→本文→発信」となっている。 ○「Activity→Unit Activity→Stage Activity」という順で全体を通して、「Stage Activity」に向けて活動を系統的に積み上げることができるように工夫されている。 ○「Read&Think」では、「Round Reading」ができるように作られており、200words 以上の「長文読解」を目的にしておらず、あえてその内容を2つにわけること、新出文法事項を学習する必要がなく、1 ページ1 文法の学習ができるように工夫されている。また、1 ページあたり1 時間を基本としており、指導計画を把握しやすい。 ○教科書冒頭に「学び方コーナー」を設けて、英語学習のコツをまとめている。 ○各学年の巻末に帯活動用の「Small Talk」を設け、即興での英語の応答練習ができる。また、QRコードから動画を見ることも可能である。 ○語句クイズ、Key sentence クイズがあり、生徒自ら取り組める教材がついている。
【9】 開隆堂	○各単元では、最初に絵や写真が配置されている。また、活動ごとに、本文や写真などが効果的に配置され、生徒が興味を持つように非常に工夫されている。 ○各 program で、「場面設定→予備知識の習得→本文→review、retell による振り返り→発信→整理」の構成となっており、ゴールまでにすべての技能を活用できるように工夫されている。 ○「Our Project」が年に3回設けられており、各単元で学ぶ表現の使用目的や場面設定がしてあり、既習事項を活用しながら言語活動に取り組めるように非常に工夫がされている。これは、学習指導要領の「自分で考えて話す力の育成」に適している。 ○生徒が主体的・協働的に英語を学ぶことができるように、非常に工夫されている。 ○各単元にペアやグループで行う活動が多く取り入れられており、学習指導要領の趣旨を確実に実施することができる。 ○特にオーセンティックな英文が使用されており、質量ともに充実している。 ○題材が多岐にわたり、中学生として英語で触れ考えて欲しいトピックが提供されている。 ○構成が3年間を通して統一されており、見通しを持ちやすい。 ○各レッスンは4技能5領域を統合的に養成でき、実際のコミュニケーションにつながる学習ができるようなタスクで構成されている。 ○英語学習における重要な技能を系統的に扱っており、自ら学び、発信する主体的な学習者の育成につながる。

【17】 教出	○各レッスンの始めには目標、終わりには振り返りが明確に書かれており、「内容理解」と「活動」でそれぞれ何をめざすのかが明確である。 ○各レッスンで、「ゴールを確認→本文→文法→振り返り」となっている。 ○1年生では学校生活や日常生活（SNS や日記、新聞・雑誌・記事）といった身近な話題を中心とした場面設定がされており、発達段階に即して読解力を養うように非常に工夫されている。 ○本文の分量（語数）は多めであり、読解力を養う内容となっている。 ○他教科とのつながりがある題材が、多く取りあげられている。 ○3年生では新出文法が少ないため、表現に時間をかけることができる構成になっている。1，2年生に新出文法がまとまってしまうが、3年生において実践の時間を多くとれることは大きなメリットである。 ○「Think & Try」では、本文の会話の続きや会話の内容に関することを自由に想像して考え、やりとりをする場面が設定されており、本文内容を自己表現につなげることができる工夫がある。 ○各レッスン終わりの「Task」では、様々な方法を通して、本文内容を思い出して retell、または rewrite できるよう設定されている。 ○「Reading」では、各レッスンのような日常的な会話ではなく、物語文を通して、長文の概要を理解したり、続きを想像しながら読んだりすることで、発展的な読解に取り組むことができる。
--------------------	--

総合評価A	理 由
【17】 教出	○教材が生徒にとって理解しやすく、考えを深めることができる。 ○目次が、ページ順と独自の7つのテーマ別の2つを掲載している。 ○様々な教材において、人権尊重について認識を深めることができるように配慮されている。 ○「ひろば」のページで多面的・多角的に考えを広げたり、深めたりできる。 ○「学びの道しるべ」では、文章の展開にあわせて発問が考えられている。登場人物の様々な視点に立って考える発問もあり、いろいろな立場の人の気持ちを考えることができる。 ○二次元コードから、教材と関連する動画や資料などを活用することができる。 ○巻末に学期ごとのふりかえりシートがあり、切り取り線や色もついていて、提出しやすくなっている。
【38】 光村	○教材が生徒にとって理解しやすく、考えを深めることができる。 ○「道徳で学ぶ22のキーワード」が掲載されており、生徒自身が道徳の内容を意識しながら、教材に向き合うことができる。 ○様々な教材において、人権尊重について認識を深めることができるように配慮されている。 ○「チャレンジ 問いを立てよう」「チャレンジ 演じて考えよう」や「やってみよう」が設けられ、多面的・多角的に考えを広げたり、深めたりできる。 ○巻末に、学習内容の振り返りを簡単に書くことができ、1年間の学習を振り返りやすい。「考えよう」では、生徒が見通しを持って考えることができる。 ○「見方を変えて」「つなげよう」では、教材についての発問だけでなく、社会全体に問いかける発問もあり、考えを広げていくことができる。 ○二次元コードから、教材と関連する動画や資料などを活用することができる。
【224】 学研	○自分の生活と関連させて考えられる教材が多く、生徒が興味を持ちやすく、場面を想像しやすい。そのため、教材が生徒にとって非常に理解しやすく、とても考えを広げやすい。 ○主人公視点で考える作品が多く、生徒が考えをとても深めることができる。 ○様々な教材において、人権尊重について認識を深めることができるように配慮されている。 ○題名の下にある一言が生徒に語りかけるように書かれており、生徒の興味を掻き立てる。 ○「クローズアップ」のページが多面的・多角的に考えを広げたり、考えを深めたりするきっかけとなる。 ○「考えよう」では、教材についての発問だけでなく、社会全体に問いかける発問があり、考えを広げていくことができる。 ○二次元コードから、教材と関連する動画や資料などを活用することができる。 ○巻末に学期ごとのふりかえりシートがあり、切り取り線や色がついていて、提出しやすくなっている。